

令和8年3月26日
農推第1343-12号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

目次	ページ
発生に注意(4月)【たまねぎ:べと病】、病害虫の発生予報(4月)	1
野菜【なす(施設栽培)、たまねぎ】	2~4
その他注意すべき病害虫【せん孔細菌病、クビアカツヤカミキリ、果樹カメムシ類】	4~5

発生に注意(4月)

たまねぎ:べと病



葉の病徴

特徴

- ◆ ベと病は好適条件(気温15℃前後で多雨)が揃うと急速にまん延する恐れがあることから、農薬の予防散布が重要である。

防除のポイント

- ◆ 発病株は、次年度の感染源となるため、ほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、ランマンフロアブル等を、発生を認めたら、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMZ等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

病害虫の発生予報(4月)

作物名	病害虫名	予想発生量(4月)
なす(施設栽培)	すすかび病	平年並~やや多い
	灰色かび病	平年並~やや多い
	うどんこ病	やや少ない~平年並
	アザミウマ類	やや少ない~平年並
	コナジラミ類	平年並~やや多い
たまねぎ	べと病	平年並~やや多い
	白色疫病	やや少ない
	ネギアザミウマ(えそ条斑病)	やや少ない

※予想発生量は、平年値(概ね過去10年の平均)に比べて、「多い・やや多い・平年並・やや少ない・少ない」の5段階で示しています。

※予報の根拠の詳細は下記ホームページ内の「病害虫発生予察情報」の該当月をご確認ください。
<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html>

次回の情報は4月下旬にお知らせします。

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

野菜

なす(施設栽培)

すすかび病



葉の病斑

特徴

- ◆ 高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、プロポーズ顆粒水和剤、ベルコート水和剤等を、発生を認めたら、ファンタジスタ顆粒水和剤、カナメフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

灰色かび病



被害果

特徴

- ◆ 咲き終わった花弁や幼果に感染しやすく、気温20℃程度で多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 開花後の花弁を取り除く。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤、セイビアーフロアブル20等を、発生を認めたら、ゲッター水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

うどんこ病



葉表の病斑



葉裏の病斑

特徴

- ◆ チッソ過多、気温25～28℃で湿度50～80%、日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤、フルピカフロアブル等を、発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、パルミノ等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ 施設栽培では、苗からの持ち込みにより本ほでの発生が多くなる。
- ◆ ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマが葉や果実を加害する。

防除のポイント

- ◆ 施設開口部に目合い0.8mm以下の赤色ネット等を展張し、アザミウマ類の侵入を防止する。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- ◆ 発生が見られたら、アファーム乳剤、モベントフロアブル等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

コナジラミ類



タバココナジラミ成虫



タバココナジラミ幼虫



コナジラミ類成虫*

特徴

- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。

防除のポイント

- ◆ 施設開口部に目合い0.4mm以下のネットを展張し、コナジラミ類の侵入を防止する。
- ◆ 雑草はコナジラミ類の生息場所となるため、ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- ◆ 発生を認めたら、ディアナSC、コルト顆粒水和剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

たまねぎ

白色疫病



発病株

特徴

- ◆ 1～2月が暖かく、3～4月が冷涼で雨が多いと発生する。

防除のポイント

- ◆ 発病株は、次年度の感染源となるため、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ジマンダイセン水和剤、ダコニール1000を、発生を認めたら、発病株を抜き取った後、プロポーズ顆粒水和剤、ホライズンドライフロアブル等を散布する。

ネギアザミウマ(えそ条斑病)



ネギアザミウマ成虫



えそ条斑病(葉の病徴)

特徴

- ◆ ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。
- ◆ ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は葉色が白く抜ける。
- ◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するIYSV(アイリスイエロースポットウイルス)によるウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が拡大して融合し、葉が萎凋・枯死することがある。

防除のポイント

- ◆ ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するネギアザミウマの防除を徹底するとともに、発病株はほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- ◆ IYSVは一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、グレーシア乳剤、ディアナSC等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

その他 注意すべき病害虫

果樹

もも

せん孔細菌病



春型枝病斑



葉の病斑

特徴

- ◆ 春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑(スプリングキャンカー)を生じる。
- ◆ 病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆ 開花期直前にムッシュボルドーDFを散布する。
- ◆ 春型枝病斑を見つけたら、落花期までに切り取ってほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 風当たりの強いほ場では防風ネットを設置する。

バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

クビアカツヤカミキリ



フラス

成虫

幼虫

防除のポイント

- ◆ 幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス(幼虫のフン・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる)を排出する。6～8月に成虫が羽化する。
- ◆ フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。
- ◆ フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してからロビンフッド(もも、すもも、うめなど)を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。
- ◆ 成虫が発生する前の5月下旬までに4mm目合いネットを2重、もしくは0.4mm目合いネットを1重に樹幹に巻き付け、羽化して樹から脱出した成虫を閉じ込め、他の樹への分散を防ぐ。

「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策(R7.3改訂版)」もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/kubiaka_osaka.pdf

果樹類

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ



ツヤアオカメムシの越冬の様子

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。
- ◆ 例年4月下旬ごろから越冬世代成虫の発生が見られる。

防除のポイント

- ◆ 園地により飛来量が大きく異なる可能性があるため、園内を見まわり発生及び被害状況を確認する。
- ◆ 園全体を目合い4mmのネットで覆い、侵入を防止する。
- ◆ 発生を認めたら、カメムシ類に適用のあるスタークル/アルバリン顆粒水溶剤(もも、かんきつ、ぶどう、かきなど)、アディオソ乳剤(もも、かんきつ、かきなど)等を散布する。
- ◆ 薄暮期から夜間を中心に活動するため、夕方に薬剤散布を行うと効果的である。
- ◆ スギ林やヒノキ林の隣接ほ場では、被害が多くなる傾向があることから特に飛来状況に留意する。

「果樹カメムシ類 生態と防除対策(令和3年3月作成)」もご参照ください。

https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/kajukame_osaka.pdf